教訓
繪入

ひゝなこのあそび

紀行八

口9
1028
20

口9
1028
20

早稲田大学図書

比賣鑑紀行卷之八

紀行貫八目録

衛共姜　毛詩
衛敬嬀妻　之絢實保
梁寡高行　列女傳
曹文叔妻　皇甫謐列女傳
魏傳妻　古今列女傳
陰瑜妻　後漢書
包億妻　又倫書
范孟姜　内訓
附孟凝妻　張補列女傳

多治比大臣妻人数十四拾弐人　後日本紀　日本後紀

後日本紀　文徳実録　三代実録

雅陵姫刀自女　日本後紀

志水義言妻　東鑑

滝美氏妻

比賣鑑紀行巻第八

紀行第八　比賣六の巻の中の二なり

いにしへ御侯の世つぎたる兵伯の妻乃兵姜なりしたる

兵伯はおくれ給ひて兵姜の母のんざ

しをそなひてこんなあくさんを兵姜死をとけてこゝに

うつちひ柏舟の節を保じて他ゆくんざをきるをたつ

とせわその間よりくるまでちらくを他をそんあハ

天なれども人を思ふこゝをばとおやの身うぶりをきるをたゝ

こくなれば身のふるふ所あるこゝろふたつなるべき事をいとで

うるぶ他なこんさしを保ぞとねるぞこゝぶりてこゝみ

なをゝかぬんいどくゝるとまや孔子侍をゝくしのゝゝるはよ
ゝ侍とはゝくねさをのゝつを
雪の御殿の高の李氏年二十をやりのゝくゝるれば
ゝく母あるれゝてゝゝふ嫁せんとゝるれどもゝさらび髮
をゝくり男をやゝゝてぞゝゝひゝるゝのゝよつどゝゝゝ
ひ巢をゝみくねゝゝがゝくゝゝんゝれゝのおゝりゝゝる
ゝゝゝ李氏男をゝゝてゝるゝゝゝ

いう所の梁の高洪といふものこちやでくんぢやゆ
ゆしうわしは女だちまさりてやりかとあるれいの中に
実人だのうそひていひうれをつのまさりて梁を
きこしめされて大臣とはらむ人をおよびてのべ
ごくなりぬやりのいくありこがこふなみてうやく
死しかこせうこうみをやあいてゆわもかせごそむくいれ
えれあまで義をとすれてんをあるこむろハかぢなわたを
きとうんくるしこ公とはうふ貞を義をとてゆりよ
あぐでいこそも人まあるどうふまでゆきるこうへ待ハい
ゑを拾ろうのこはふまるこのあれびとかこふをとり

ゆきこふをうぐこそ元やハこあるとを女ゆへなわいまく
なわてはわすてこせのへすをいひうれば使若こうりて
そのようをとはをいうぐくあでうひてふぐくそのを波をゆ
弓矢をとるはとよびてそのいぐせをせよあいはをあ
魏の曹文叔ぐ書あい多侯久宮ろむすあ名を人令女くいつ
文叔くやくおこわて令女をいもてあもりりうぐ多を
りうんぐさしのをふまもどやあんんこうをてはうろ
文叔ぐ服をそめるは時よかこをこりてんぐをあうんれ
どもはぐすぎぬをぐ父母をやうくやをいひうを令女こて
又さこの母をきわて文叔ぐいくこれ曹爽をそのこそあさ

女鑑卷八

女鑑卷八

つとけうそのほ曹爽誅せられて一族ふるひうしなへ今
女が叔父伯父しおやけよりて曹氏とゆうりとめら今女
とあり とりてうりぬはよ又の文寧い梁の寧相りて亂い
うあくさうへうり人今女ハいまいまごろく曹氏ハりうびうて
ぬまびいまハうとんづくいあづいふもてみ人よせゞや
とふつりうれどみうーやうよりをやぶうりやうるとんだ
うしりて叔ふうへとそ人てゆりーせそのいよりふりく
ふうさんとさてうんうりよ今女あうはうふりけうさて我も
うりいさふへうりうりいうりを俗ーふえうくまりうりうりを
おうりしまとうびひりうふ国よへてうるうりすてうる

ふうさうづうさて邪うり母よびうれというへもせうりうれびやうう
うあぬひうさのとうそうんうりうよりうれ奥ようそゆうへうりくます
うさりもあてうりまりうさうまりうりうりうりうるりうりうりうる
かうりりり

乃ちこれをすてらるべき拾う仁義をもつぐる倉獄あり
倉獄好ぎ嫌いなぞ色をんやとこりそれうるべのあく
さ哀だれてのち泰ぶ人ぬ松のうぐりるよりいせてを
うくいさるるあしたぐるまやあくうで
あるさんとむまれるる月と倉獄ひさしいよくいまでと
ちりへるあんゆしさつかるりなく拾かり
元魏の魏清が妻の房氏は李帥の大ち房清がむすめ
いとれあるさまちそのゆざませのつとあるした魏清よつまて
はるーナ六すもものこ魏清をうみいまざ百日よくこざりし
こり魏清いくちりくやこていさこのうらとんるる時まあよ

むひていくくだい世のあるひなれべうるもるよるべはるる
あるよあるまるまるこさまあ母のもるけあれいをるるさぶ拾あば
はるあるさうるるなるたるみちの拾あれるるしのれば房氏湖
るりふるるるるのをるくぶるをちりて君よはるるまるり拾
つるるち僧花の芳りるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
あるるるれるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
なるる女の男あれるるもんるるるるるるるるるるるるるるる
てりるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
いるるるるるる魏清るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るびて房氏はるるるのるるるるるるるるるるるるるるるるる

ちのりよりんてえまいてすべしといひて衣いあけよそそ
しとろものうあるとこおそんあるまるこの劉氏をこと
おしとどりて新妻いつぐいうひとりて叫ろまうるこいそれば
風つくまふをうてくるくやりてこなりあんのそこるあろ
さうぐりとろ母をまるこびいそんこかくなりてちろいとこ
てたうるわといひそれぐさくちのぬくやぐいさうるゆぐろい
るしそたちつまよおくこうりぬてるそそこ風ーなしい
かりもしいをあるるれしあるまでよいこけのあとさらば
親孫十一累あるりろ姑しりて父母のぐりこうるいてゆさ
をろよ又のうるぐどなんをんよりんとりろと親孫さ

きて母よつぐくまで風そのりりのをしをこのぐしりう
あへしてまいぐくするこちあよんまりはこてび里へうて
どそのんさしをまるまいるまるはつあよ親
孫ををしへそて世よあるるおしむと親はよりて
孫陰のをちとなまりあ彦氏いまおすあまりるのよ
そしを母後乃法をしりゆ寿十三のをこよんてこり
涙の陰孫が書い荀粟ふそこのしすあるりあい宋家を
女荀名恵さくく文義いしこりりまま十九ちてむこあ
を一人うこ陰孫はさんをくこくあまれりあ荀氏をこくこ
しゆんあやのんぐしをはりてかくあをありりけうう

あのぐく文をのおれ郭奚とふ者の妻となりあいてに
むとあとゆるしてなりさて文やまいそてむとあとをびそれば
ありぬうけてたひしるるれバかとあくこゝろよねてんをさぐ
とうく人ぬ文をのうしばさ女房をどもてかをありうをを
るくら興ようれのをそ郭氏ぐ郭よりやうなをとくん
ちまして人おりくあいをの人ありすでを郭氏よりうれバを
くとおりいとりをぐくあるのくをを郭氏ぶつ
法氏くかふ墓をるぐくくちくをあれをおりひつくんの
すをとをびてうくなりやうくん人せんをうるをうくん
て郭奚をとびつをを郭ぐりをうをびおりくあるて衣

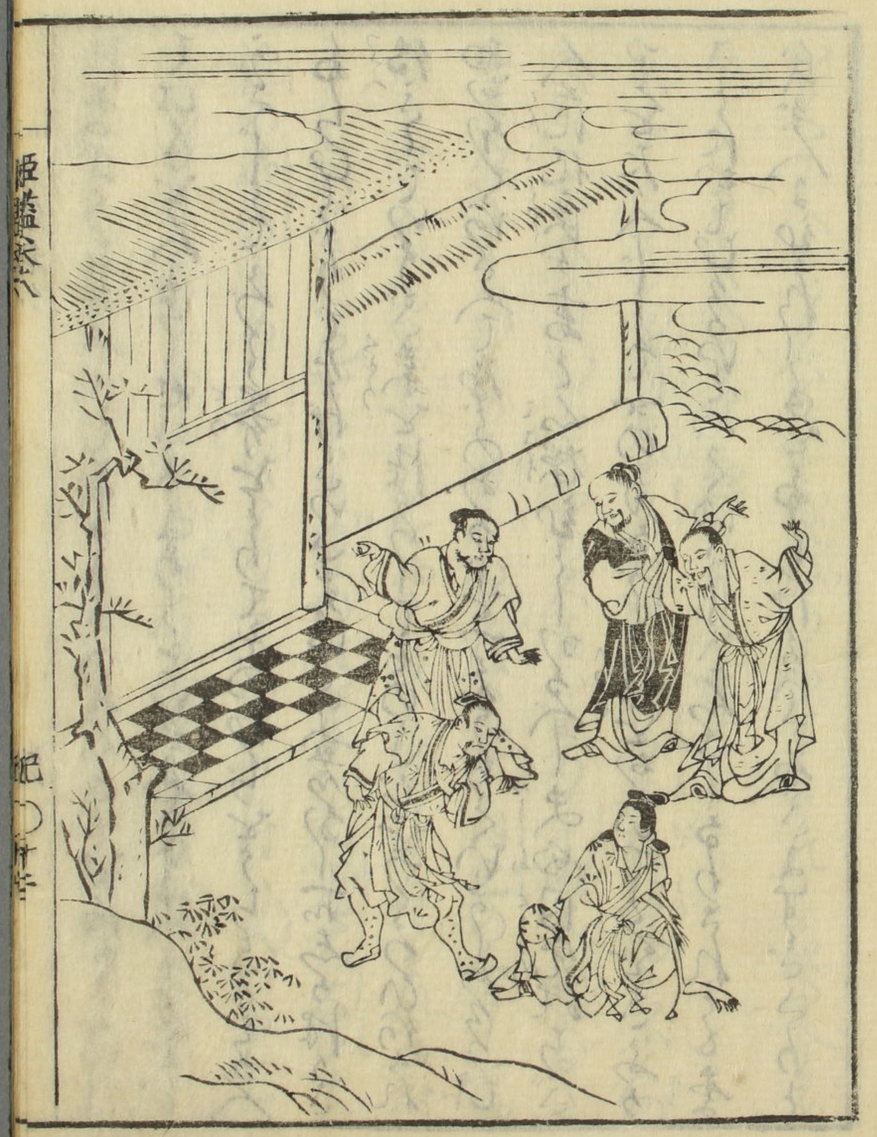
裳をくくくをくをくをうぐりうをふうちあくくをむくやまぶ衣
を郭奚ぬくかやくくてけくをちくばをあくどあもある
ぐくをあれをれゆぐのをつくををて内を入をを人くるあくと
ををけくをのをくををびすくくぐりかれうを人くうあてるを
をんをくくれくをくやいをあくてしあくくなりをうを奚ア
をくれバ白形ををて戸還法の三字あをとうをりかぐをを法氏
を奚をて同定の祢ぐひをとげをををのふをるべく人を
ぬをくをくいをくをけくをうや法の一字のなをくをけくてあ
つくくくくるん
家の包巻素をくを包信ぐ者い前州の霍氏ぶしをあり

包侯ゑりのみどりよとりてその身は世をとりくさり
巻素をしめれんぐいぐいあるべきとおぼつかなくもそこに
くろくさくさくさくれば寇氏くさちをなげうちなくさうまつり
まてく巻素をはゆくくあまは天下の名をとりておりませばくく
てやはぐくまつくさんをとりて身のくさくくいるりてくく
いうぐうまをまりぐぐてはあのをとをぐまいくすくこと
とをんやいくさ包氏のあとをりぐくい包氏はさゆ
ゆくなりてくくふくさんいうぐくちくいくれぐをいくめぐく
んとをぐくさりそのくちをあをまくくせよくれば母の呂氏新
別ちまりてまよあくれてあとまはくまくはくさりゆまり今

あるくれば行のをまはまくまくぐと乗婦のゆをすめくれしぐ
むをありいくはぐめぐあぐぐまれくるしあれくあぐくりみくい
くぐぐをのまはまくまはぐ風すりはていく年巻ひ
わくをあくくくん拵まくくすぐくくて母のんゆをくぐ民母
いくくくみくくまくぐぐくれくふあくくをくむくりいくくく
あぐくくひくればむくあくくまくるくくえをぐくげふこ
をくくむくくんくくまいくをんいくくりわる
そむくくりくるひまいくせくえくる母くくれぐ新別くて
なくをあくあくまくぐ命をくぐ一をくぐのをくくゆくけくぐ
むるくくきくくく包氏はくくをまくくくをくりくを

ごうがどもをてはとうもんゆるさずつまをしんうちもくてに
ねまよみ色氏の家よりうへしうの首氏の孫しうしと雀氏の
ちゑふごろと生死にこゝろをかけしゆへども同完のんぶをは
かりとぞうろうはいづまをもをしうまけうふなん
いかへへ春の花花良ぶ書画書あいとこゝろへのひとあと
その又花良ともこゝしてうぶ書よりまをうまてうんげうう
三日すぐろうろう軍俊よさしく長嫁とゑとをこちうひに
ゆくえへくえてぶりうの郎どよりをくをなりうれば画
墓をのこんしをあいくあるをうをうは花良はかりふく
うをを画墓をてをうをこちうげしてをうをの家ををじひあて

ろうけうを城へあどりゆをこちてのうろうのををあと
ちをのうををうをのうをのうをのうをのうをのうをのうをのうを
か孫をしがいづまをうをれをうをれどうを画姜ゆびをうを血をあ
ちをくちをうをうをのうをあるべけ血をうみをくをちをひてあと
わをちをどをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうを
めををうをうをあいをくをうをうをうを女のちをうをあしをどを
んのうををうををうををうををうを滝屋をを平をうをを
をや一あをををうををうををうををうををうををうををうを
いをかのトををををのををうをあをををうをのををうをみを
人いをくをの節をよめををあをををうををうををうををうを



ふたりあり夫妻なりかさらをとさげてほすべきもまうりろと
うや又ゑびの時音がれを激ぐ妻李氏乃じ十わかわ王激
視別よはりさありて書あをあひでてゆきろろぐそろそ
屋まひをきをきをまろ氣りてりいを面ぐくひろ氏
るさんいたおりりぶ李氏ろくを王ゆぐひてるりろ
さてもあるべりぐれびなれをを指よいまくりちひよ
をりげさんてなくゆりさ今入りをる開対ふ所すて
あるるよりちり一枚のをとかりろよりるぐそのりりさ
まをあやしくてかさどは日すてよくゆきろればるぐくいで
うまてるりをりるし情とあくをの氏ぐまをりて急さい

ぼ雲氏うちわつぎてあるこまうぐ我んざーとゆをうぐ
てゆをとんようしをてうるあーどいでわをゆんよ分とけ
うこうぐーてうぐ～茶とうりてその辺ぐとうちうろうん
あちひぐりてなげうこうまぐびうふ茶るる～あちうはこ
ゆうこうてゆうぐ茶とはうーてそのこどをつくろのゆれ
ぬありくゆうこうて屋ぐのあるぐとつえうちくいまーめろけ
人花花良ぐ高とん様ぬーーりるべーまぬ回完ぬちぐ
つをとたぐべじーて女の分あぐ～指をあいてうをこふう
こうにあしゆうひとぬくゆーーこんぐーるわされる事
氏ぐ人よゆれうーをあ高ちけうゆこあこますぐこうと

元

もりうこうんあうるべうれど員氣のんぐーそれ全石
ろぐこうるうろ文をうこぬべこまこまう
我ぬーーむーー兄明天宮あれ附た大臣多治比殿とふんの
夫人の家氏ぬむをあるわ大臣いをわーー附大ぬをおこ
むうろをすめやりあこなわあるなぐ回完のんこをゆ
ゆうみどうの貞節ぬんをぬくうでおげーそれいそれわれ球
うーてふすれ邑をあうり連のぬをこひぬ賜右大臣大
徳の清げぐ高ハ紀氏なりうりふすあうぬ附いまのあをけ
をありて茶をすりるあ治比の高氏よ和ーーうわれ
ばれうをふ十ヲの位対をこびうりうれ和相之年九

事なりて
山外をこえて死してはなげきをとゝめて節義をさてこそ
婦せざりし婦人を訪して四方につゝみ家のえぐらをゆるされ
らるゝなどのうり門をもうるさせくその貞節をのゝうり世のす
めとなるべきなるを紀伊のくにうりくうしうれどもと
なるさはかゝ沙人よりその名をうりをもうるつゝあ称淀君
乃氏世子の結髪の玉紀四の世妻右見の玉額田部の嫁程
妻辛城君乃氏世子古作の玉物部氏とゞ妻僕婦天皇
乃氏世子古称侯紀忠孝が妻源和君乃氏世子八別乃今
生妻甲斐玉小長谷津見ゞ妻伊藤乃玉風早黄ゞ

女仁明天皇乃氏世子甲斐玉大枝子磨ゞ妻橘清の玉
古作衣四ゞ女文徳天皇乃氏世子紀氏の玉伊賀の玉伊賀乃法
紀四月酒ゞ妻清和天皇乃氏世子紀伊玉仁和ゞ妻小野の玉
う女右京の文屋吉麻呂ゞ妻紀伊玉伊勢の玉伊賀乃法
紀福刀自上総玉美紀足妻越後乃玉吉志今ゞ妻
筑玉紀足妻紀伊刀自美濃の玉紀秀刀自紀伊の玉紀
ゞ阿波玉長大宮ゞ妻陸奥玉刑部玉妻武蔵玉巨勢
康ゞ安藝玉板部ゞ福信妻伊賀玉新部福刀自紀伊玉
橘村直清常刀自但馬玉月下部良氏ゞ妻光春天皇
の氏世子丹波玉涙紀妹刀自妻それゝ中ゝ世ゝ

られてはその墓よいわゝし地うを久おくて久しく祀
げらるゝひゝろい称徳天皇の代世より對るの指言稱徳
自家女光仁天皇の代世より三後乃稱の真玉う妻姫海天
皇の代世より下賜玉下賜玉光仁天皇乃代世
妻で玉拾紀世妻黄帝陸玉新治玉家ゞ妻仁明
天皇の代世より山城玉奈良楊う妻清和天皇の代世
より玉石鎚紀廣俊女河陽玉志紀玉貞女出雲乃玉
大若宗玉刀自国玉雅紀小稚貴光孝天皇乃代世う
加賀玉国道今より其の後ハいもじかゝ人ど
又ゝふんのいとゝう清和のみとれ代世光孝の時

那波紀の貴刀自妻玉十八ゝて国玉下賜紀乃大伝厳
皇情交ゝるゞ妻ゝ多ゝ有ゝ方国うりて後人あゝをいて
むゝ人ゝをいられゝゝ小平嫁のゝ多ゝ有ゝ
衣裳ゝるゝ方の様ゝ有ゝ
なげゝゝるゝやゝ
皇ゝ産ゝ玉ゝ
多ゝ方ゝ里人ゝ
のみゝゝ
よゆゝ
元慶の代本官左義仲ゞ志紀冠者義ゝ

北朝御のしとめ大姫君をとつよりてを嫁給ふとて
きりと義仲ありつぼされて後北朝御は君ちよんゆゑび
なくおもふこころさんをせんとを義言さうつあてすげ
ゐの君なりての使をてこうこれをつゆ上をうに
使の源太内義光源とりふものへりうかりて義言をう
ちうりをづくしは事をくしうれも姫君もさてよ
つうこざわるくうれしゆーげりをごるもすちびあは義
西どいやぬくなげさもりもてうべそのうこみようう
てはのようの光源をうちうされど姫君おりいのくう
ふまりのくやまひのさふかめてしはふそひやつをゆう

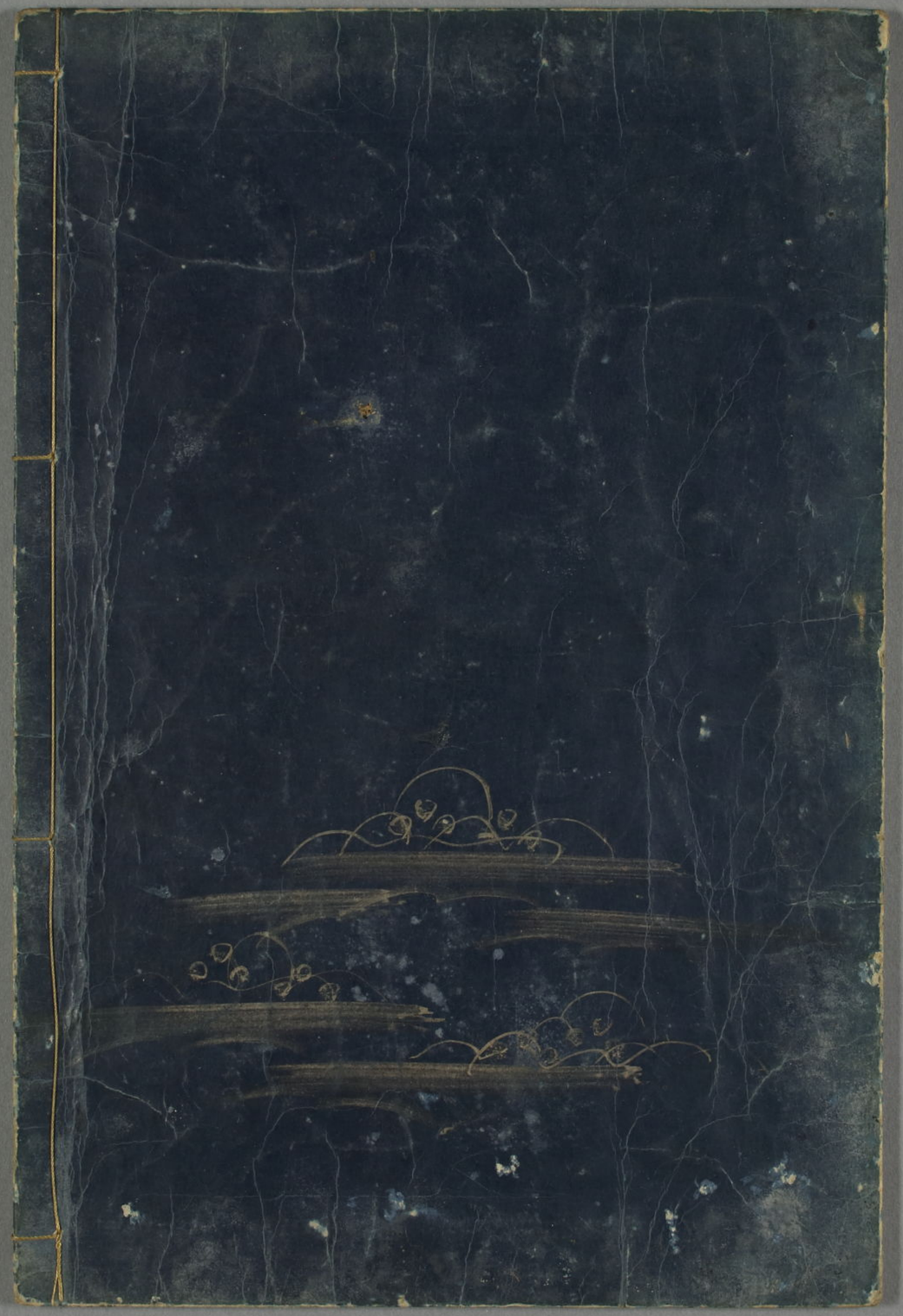
そのうちすぎて北朝の御よんを義仲義
言殺とうへ京よりうまうへりうよりはあ君をと
ぼきんを母内春のもへつをを姫君うくさいくもしさ
ふるのあうぐいるのうゆちせるも男をうげりあんとう
をりされうべれ春をくらいあごめんを言殺うりも
こうをこまさをひうしうさうりしいのくんしてはその
ゆいをびまりのうりて姫君のなをうちりくこゆ
りをありけうぶ遠久へのすをれうるようつゆをはうりる
いつのはりのりをん源義仲ぐしとふものくまよ水戸氏の
むをあうりんざはは貞殺めてつしをふくをびすく

ゐ又八一城のうゐ
ゐるきうこうれ
しうわうれんを書
ろゐ者を更書の
しやせばうを
おのこ子一人あり素
をうゐりゐまを
ゐうゐ書の兄あり
じうをおりいて
わこ者ゐ者ごば

ゐて一族こうりかあひとうわて事すでふせまうぬ
めゐうゐかゐ国ゐうゐ自害せんこてすぐゐかこゐをあて
てもうをあーはゐ人のあごもこーをかうわてこうをごめうう
ゐ血ゐごんてやまゐ兄ゐんゐををてこうび猟のさいじ
ちうひうればやりうこうわーぞゐなうわていくこうひ
うんゐゐごうおこうき者をすてこぐうゐ兎をうこごゐ
むやこーそれうゐを行やのうちゐ屋ーなひいこぐこて
ゐうこゐてうわさ人りをゐあうぬゐをこのまびこふ
やりうこゐりゐうねひ行ここの養ゐごこうりかゐよりゐ
も門をあうこゐ第をまゐうゐ大むゐひゐゐひうう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

比賣鑑記行卷八